



香川大学 国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～ 平成23年1月31日役員会審議承認

基本方針

○地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

○国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

○国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
 - ・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
 - ・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
 - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映(例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成)
 - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
 - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
 - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
 - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

チェンマイ大学との共催シンポジウム(2010)報告会の開催

平成22年9月16日、チェンマイ大学との共催シンポジウム(2010)報告会を、本学の研究者交流スペースで開催いたしました。チェンマイ大学との共催シンポジウムは、タイ王国チェンマイ大学(1990年4月協定締結)と本学の共催で、平成19(2007)年12月に第1回をチェンマイ大学において、平成20(2008)年10月に第2回を本学において開催して参りました。第3回は、平成22(2010)年8月24日~26日の3日間にわたってチェンマイ大学において開催され、本学からは、一井学長を始め、教職員と学生あわせて46名が参加いたしました。

9月の報告会では、一井学長の開会挨拶の後、田港副学長(国際・連携担当)がシンポジウムの総括を行い、続いて、4セッションそれぞれの担当教員が各セッションでの成果を報告いたしました。4セッションの名称と報告者はそれぞれ、Agriculture and Biotechnology(合谷教授、農学部)とMedicine, Science and Engineering(徳田教授、医学部)、Humanities and Social Sciences(村山教授、教育学部)、Healthy Aging Society(澤田教授、工学部)です。テーマに応じてセッションを分けることにより、専門や関心の近い研究者同士でより深い議論ができたという良い面の一方で、学部をまたいだ大学間のシンポジウムの良い点である学際的、分野横断的な議論が深まらなかったのではないかという反省意見が出されました。

シンポジウムの3日目に設けられたラウンドテーブル・ディスカッションの報告(ロン教授、国際オフィスの報告)では、両大学の新たな共同研究やその他の連携事業の可能性、そして、平成24(2012)年開催予定の第4回に向けた両大学の合意事項等が改めて確認されました。また、参加学生を代表して、農学研究科の和泉悠利子さんと山畑梓さんがポスターセッションの報告をしてくれました。学生らにとっても、こうした国際シンポジウムでの研究発表は貴重な経験となったようです。チェンマイ大学の学生らがチェンマイの街を案内してくれたことも楽しい思い出となり、学生同士の交流がさらに深まりました。

報告会の後半では、田島理事(副学長)(学術・広報担当)がシンポジウムの期間中に締結された、チェンマイ大学と香川大学との学生交流を促進するためのダブルディグリー協定締結の報告をいたしました。続いて、本学の各部局から、チェンマイ大学のカウンターパートとなる部局との今後の交流の展開が報告されました(教育学部(高木准教授)、香川大学・愛媛大学連合法務研究科(新井教授)、経済学部(ラナデ教授)、工学部(澤田教授)、農学部(合谷教授)、医学部(徳田教授・内藤教授)、国際オフィスの報告(ロン教授))。最後に、本報告会で出された課題を踏まえて、第4回シンポジウムに向けての意見交換を行いました。

チェンマイ大学との共催シンポジウム(2010)の報告の詳細は、『香川大学国際オフィスマガジン』第2号(近刊)をご覧ください。また、第4回シンポジウムの内容や準備状況等は本学ウェブページで随時報告していく予定です。こちらもあわせてご覧ください。

(国際オフィスの報告 正楽 藍)



国際交流活性化の推進活動

平成22年度 第3、第4回国際ショナルオフィスFD・SDワークショップを開催

平成22年度後期には、第3、第4回国際ショナルオフィスFD・SDワークショップを、幸町キャンパス、医学部、工学部、農学部各キャンパスを遠隔会議システムでつなぎ開催しました。

平成22年10月25日には第3回「国際学術交流推進に向けてー国際研究支援センターの取り組みー」が開かれ、国際ショナルオフィス細田講師ならびに国際グループ宮下サブリーダーからの同テーマに関する発表のあと、農学部片山教授から国際研究支援センターの活用法の例についての発表がありました。各部署の研究助成に関する現状の報告や、国際ショナルオフィスに対する要望、提案なども含め活発な意見があり、今後各部署と協力して国際交流を推進していくための貴重な意見交換の場となりました。

また、平成23年2月8日には、第4回「留学生の受け入れと本学の体制」が開かれ、国際ショナルオフィス高水講師が同テーマについて発表しました。

(国際ショナルオフィス 細田 尚美)



第3回の様子（幸町キャンパス）

講演会「世界の『水』問題を考える：持続可能な発展をめざして」の開催

平成22年10月27日、オイスカ・イスラエル事務局長ならびに「持続可能な農業を考える会」の理事、ラナン・カツィール氏による講演会「世界の『水』問題を考える：持続可能な発展をめざして」を開催しました。カツィール氏は、長年イスラエルの国際協力事業団の事業に携わり、南アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアで持続可能な農業について調査と指導を行ってきました。講演会では、世界の重要課題の一つである水資源問題について世界的視野から説明した後、世界の様々な環境での水利用と農業のありかたや、現在の水資源の確保に関わる問題と利用可能な技術について解説しました。講演会には本学の教員や学生のみならず、政府機関、民間企業、ボランティア団体関係者も参加し、香川県の生活者にとって身近な水問題について様々な角度からの質問や意見が交わされました。

(国際ショナルオフィス 細田 尚美)



ラナン・カツィール氏 講演会の様子

講演会「ドイツ国際平和村の子どもたち」の開催

平成22年11月9日、香川大学幸町キャンパス研究交流棟で、日独交流講演会「ドイツ国際平和村の子どもたち」を開催し、地域の国際交流関係者や国際交流に関心の深い方々、本学教職員、学生など約150名が参加しました。

講演会は、香川大学インターナショナルオフィス、財団法人香川国際交流協会、非営利株式会社ビッグ・エスインターナショナル及び日独交流振興協会の共同主催により、日独修好150周年を記念して両国で開催される多彩な催しもの一つとして企画、開催されたものです。ドイツのフォトジャーナリストのウリ・プロイス氏はドイツ国際平和村の活動内容や、そこで暮らす子どもたちの様子などについて写真を示しながら講演し、会場からは多くの質問や自分の経験談が寄せられました。また、香川大学ミッド・プラザにおいて11月1日～11月8日の間、写真展も開催されました。

ドイツ国際平和村は、1967年にドイツ市民の手によって紛争地域や危機に瀕した世界の子どもたちを助けるために設立され、これまでに50カ国で傷を負った2万7千人の子どもたちの治療・リハビリを実現しています。
(インターナショナルオフィス 細田 尚美)



平和村の様子を伝える作品を展示した写真展



写真左：ウリ・プロイス氏

協定締結調印

- 2010年11月2日 本学とトリブバン大学との学術交流協定及び学生交流プログラムに関する実施細則
- 2010年12月9日 本学とムルシア大学との学術交流協定及び学術交流協定に関する実施細則
- 2010年12月9日 本学とバタンバン大学との学術交流協定及び学生の交流に関する実施細則、本学農学部及び大学院農学研究科とバタンバン大学農業食品学部との学術交流協定に関する実施細則
- 2010年12月13日 本学と王立農業大学との学術交流協定及び学生の交流に関する実施細則、本学農学部及び大学院農学研究科と王立農業大学農産学部及び大学院との学術交流協定に関する実施細則
- 2011年2月1日 本学とカリフォルニア大学デービス校カリフォルニア大学理事会との学術交流協定
- 2011年2月28日 本学とセントピーターズバーグ大学との学術交流協定
- 2011年3月予定 本学と誠信女子大学間の学術交流協定及び学生交流に関する実施細則
- 2011年3月予定 本学とリモージュ大学との学術交流協定及び学生交流プログラムに関する実施細則、本学工学部及び大学院工学研究科とリモージュ大学国立高等工学院とのインターンシッププログラムに関する協定
- 2011年3月予定 本学と北京外国語大学との学術交流協定
- 2011年3月予定 本学教育学部とチェンマイ大学人文学部との学術交流協定に関する実施細則
(国際グループ 宮下 真来枝)



バタンバン大学調印式



ムルシア大学
マルセド・キャンパス中庭

2010年度日本留学フェアで広報活動

本学インターナショナルオフィスは、独立行政法人日本学生支援機構等主催の日本留学フェア（3カ国5会場）に参加しました。

日本留学に興味がある高校生や大学生、日本語学校の進学指導者等に対し、本学の広報活動を行いました。来場者は、専門内容・入試・奨学金・寮等についての説明を熱心に聞いていました。

特に、初参加となったインドネシアとマレーシアでは、現地の学生のニーズをとらえる良い機会となり、今後の広報活動に活かす予定です。

【実施結果】

実施日	会場	本学説明者	本学ブース来場者数
2010年10月2日 10月3日	インドネシア (ジャカルタ、スラバヤの2会場)	教育学部高木教員 入試グループ香川グループ員	約200名
2010年11月25日 11月27日	タイ (チェンマイ、バンコクの2会場)	工学部石塚教員 農学部木下係員	約140名
2010年12月18日 12月19日	マレーシア (クアラルンプール会場、2日間)	インターナショナルオフィス 正楽教員 国際グループ中塚グループ員	約50名 (資料配付200名)

(国際グループ 中塚 紗和子)



インドネシア会場



タイ会場



マレーシア会場

部局の国際交流活動

工学部－ハンバット大学との合同研究会を開催

ハンバット大学の学生10名と教職員5名の15名が、平成22年9月28日から10月1日まで香川大学を訪問し、9月29日には、「第1回香川大学およびハンバット大学による材料関連合同研究会」を開催しました。特別講演が2件、口頭発表が6件、ポスター発表が31件あり、約60名の学生・教職員が参加し、活発な議論がなされました。また、翌日の30日には企業訪問を行い、株式会社石垣（坂出市）と大倉工業株式会社（丸亀市）を訪問しました。滞在中は、連日、学生及び教職員の交流会や懇親会も行われ、さらに親交を深めることができました。

(工学部 澤田 秀之)



発表の様子

医学部の国際交流事業

1. チェンマイ在留邦人への遠隔健康相談開始

平成22年11月20日より、チェンマイ在留邦人に対してインターネットテレビ会議システムを用いて健康相談を行う事業を開始しました。当面、第1・第3金曜日に各2時間（日本時間10時～12時：一人あたり30分）で実施し数ヶ月実施した後に評価することとしています。

2. ブルネイ・ダルサラーム大学医学生の研修

平成22年12月5日～12月24日の3週間にわたり、ブルネイ・ダルサラーム大学医学生8名が医学部および附属病院における研修を行いました。今回は糖尿病とその合併症をテーマとして、関連する臨床科での研修や基礎研究の勉強を実施しました。医学部学生との交流事業を実施し友好を深めました。

3. チェンマイ大学医学生の研修

平成23年1月23日～2月10日の3週間にわたり、チェンマイ大学医学部5年次生2名が医学部および附属病院における研修を行いました。臨床科での実習を中心に、手術見学、K-MIX、関連病院見学などを実施、また医学部学生と共にさまざまな交流活動を実施しました。（医学部 徳田 雅明）

国際研究支援活動

国際研究支援センター研究会シリーズ 第1～3回を開催

インターナショナルオフィス国際研究支援センターでは、香川大学における国際的な研究活動推進のための研究会シリーズを開始しました。研究会は、国際的な研究を実施している／実施を希望している方々の報告を聞き、参加者の間で活発な議論を展開するとともに、それぞれの研究の発展へとつなげることを目的としています。研究会シリーズは、幸町キャンパス、医学部、工学部、農学部各キャンパスを遠隔会議システムを使用してつなぎ、部局間の研究交流も促進しています。

○第1回「ケアの現場における国際協働に向けて：移民介護労働の日仏比較」（平成22年10月6日）

日本をはじめ多くの国々で関心が高まっている少子高齢化社会と移民労働者の関係のありかたをテーマとして取り上げました。介護の現場で働く移民の実情と課題について、日本のフィリピン人の例をインターナショナルオフィスの細田尚美講師、フランスのアフリカ系移民についての例を経済学部の園部裕子准教授が報告し、両国の比較を行いました。



第1回 園部准教授の報告

○第2回「明治憲法の思想：上杉慎吉」（平成22年12月1日）

大学教育開発センターのノイマン・フロリアン講師が大正昭和初期の思想家として知られる上杉慎吉について国家と道徳、プラトンの理想国家論、主権論といった視点から論じました。また、ディスカッサントの教育学部の武重教授から日本の政治思想上における明治憲法の思想の意味づけについての解説もありました。

○第3回「ネパールが抱える課題に挑戦してみませんか：気候変動にかかわる諸問題と香川大学との共同研究への期待」（平成23年2月2日）

工学部の長谷川修一教授とトリブバン大学のランジャン・クマール・ダハル講師が、ネパールの抱える課題や同国との交流や研究協力の可能性について、会場に集まった学内外の参加者とともに意見交換しました。香川大学では平成22年にネパール唯一の国立大学、トリブバン大学と学術交流協定を締結し、工学部を中心とした共同研究が進められていますが、今後一層、多様な分野において共同研究に参加する人が求められています。



第3回 ダハル講師の報告

（インターナショナルオフィス 細田 尚美）

競争的資金申請支援のための説明会の開催

国際研究支援センターと国際グループでは、国際学術交流活性化のための競争的資金申請の支援を行っています。その一環として、平成23年1月には、「平成23年度国の競争的資金説明会」を学務グループ、研究企画センター、研究協力グループ、社会連携・知的財産センターとの共催で4キャンパスで開催し、来年度募集予定の助成事業と申請の際のポイントについて解説しました。配布資料は下記のガルーン『掲示板-学術室』に掲載してあります。ぜひご活用ください。（インターナショナルオフィス 細田 尚美）

※「平成23年度募集予定分の日本学術振興会国際交流事業一覧」（香川大学教職員限定）

<http://cbg2web.ao.kagawa-u.ac.jp/cgi-bin/cbgrn/grn.exe/bulletin/index?cid=21>

学生向け行事

平成22年度 学長主催外国人留学生交歓会を開催

香川大学では、外国人留学生、外国人研究者、教職員及びチューター等日本人学生や地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会を開催しています。今年は、平成22年12月2日にオークラホテル高松において開催し、約270名が参加しました。

一井学長の挨拶では、日頃留学生を支援いただいている方々への感謝を述べるとともに、留学生に対して、社会規範を尊重し、法令遵守に努めることの重要性を注意喚起しました。これを受け、留学生代表の香川大学留学生会会長 工学部4年 Muhamad Hafiz Bin Ismail（ムハマド ハフィズ ビン イスマイル）さんから、学長はじめ指導教員、地域の方々への感謝や、より一層規範意識を向上させ、勉学に励むとの挨拶がありました。

今回は、留学生の法学部3年 焦 嬌（ショウ キョウ）さん、法学部1年 姜 熙元（カン ヒウオン）さんら2人が、仏生山国際交流協会の方々のご厚意により和装で司会進行を行い、懇談の合間には、タイの留学生や、マンドリンクラブによる演奏などのパフォーマンスが披露され、会場は華やかに盛り上がりました。

最後に、マレーシアの民族衣装を身にまとったロン・リム留学生センター長から留学生へのメッセージが述べられ、交歓会を締めくくりました。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本で留学生生活を充実したものにしてくれることを願います。（国際グループ 宮脇 みどり）



挨拶する一井学長



タイの民族舞踊(Thai Umbrella Dance) SHOMPOOSANG SIRINAN (シヨンプウセン スィリナン)さん、JANWADEE ARYUPONG (ジャンワディー アユポン)さん、NETRPRACHIT PAPICHAYA (ネトラプラチット パピチャヤ)さん、SAMTA THAPANEE(サムタ タパニー)さん

外国人留学生課外教育行事

第1回課外教育行事(平成22年9月28~29日、島根)では、「出雲大社」と「古代出雲歴史博物館」で日本の歴史や神話を学び、「まがたまの里」で勾玉作り体験をし、帰路では高梁市の「瀬久寺」と「武家屋敷」も見学しました。第2回(11月1日、兵庫)では、「キッコーマン高砂工場」で醤油の製造工程を見学した後、「姫路科学館」でプラネタリウムや科学にまつわる各種展示を見学・体験しました。今年度から、より関心を持って深く学んでもらうべく、参加学生全員にレポート提出を課すこととしました。学生たちは両行事を通じ、日本の歴史や文化を、五感をフル活用して学習・体験できたものと思います。

(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



出雲大社にて

秋期新入留学生ガイダンスおよび歓迎の情報交換会

平成22年10月9日に新入外国人留学生ガイダンス・チューター説明会が実施されました。生活面・手続き面での重要な情報提供が行われました。同時に、チューターに対しても、留学生



が本学に入った直後の手助けに重点を置いた説明が行われました。その後、新入外国人留学生を囲んでの情報交換会が開催され、多くの本学学生や地域の方々が参加してくださり、にぎやかな会となりました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)

香川大学留学生センター2010年度短期(6ヶ月)日本語語学研修プログラム及び2010年度秋期日本語研修コース開始

平成22年10月1日には、香川大学留学生センター2010年度短期日本語語学研修プログラムの、平成22年10月8日には、香川大学留学生センター2010年度秋期日本語研修コースの開講式がそれぞれに行われました。大邱大学人文学部日本語日文学科の学生3名が科目等履修生として、国費外国人留学生2名(カンボジア出身・ホンジュラス出身)が教員研修留学生として、それぞれの留学生活が始まりました。

開講式では、ロン留学生センター長からの歓迎の挨拶に続いて、インターナショナルオフィス教員、国際グループ職員の紹介を行い、留学生達は、まだ未熟な日本語や英語で日本語習得に対する熱い意気込みを語ってくれました。

(国際グループ 宮脇 みどり)



左から3番目から、大邱大学 李ハナさん、金順花さん、金三三さん、日本語日文学科長 許教授



左から3番目から、WAN BUNNAさん(カンボジア)、SAUL EDGARDO MONCADA VALLADARES(ホンジュラス)さん

第14回日本語語学研修プログラム

平成23年1月17日から28日まで、第14回日本語語学研修プログラムが実施されました。今回の学生は、輔仁大学(台湾)より6名、韓国海洋大学(韓国)より5名の、計11名でした。日本人学生との交流のみならず、両大学の学生間の交流も活発に行われ、我々としてはうれしい限りです。今までも、本プログラムに参加した学生が、本学へ再度(そして、より長期の)留学をしてくれたという実績があります。今回の研修生もそうなることを心から願っています。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



海外語学研修ガイダンス・研修生帰国報告会

平成22年11月17日、海外語学研修ガイダンス・研修生帰国報告会を開催しました。春休み期間中の海外(カナダ、オーストラリア、韓国)の大学での語学研修に関心をもつ学生向けに、研修先大学や研修コース等を紹介した後、平成22年度の夏休み5週間、クイーンズランド大学での研修へ参加した林優さん(教育学部2年生)が体験談を発表してくれました。

詳細は、インターナショナルオフィスのホームページに掲載しています。あわせてご覧ください。

(インターナショナルオフィス 正楽 藍)



夏休みの研修の様子(林優さん(右から2人目)、教育学部2年生)



夏休みの研修の様子(勝本真衣さん(中央)、農学部1年生)



夏休みの研修の様子(大山崇さん(右から2人目)、経済学部2年生)

「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業

外国人留學生のためのビジネスマナー

平成22年9月25日～9月27日の3日間、「外国人留學生のためのビジネスマナー」特別講義を実施しました。高松短期大学秘書科の関由佳利先生を講師にお招きし、就職後に必要となるビジネスマナーを学びました。

留學生のための就職支援ガイダンス

平成22年11月24日、「留學生のための就職支援ガイダンス」を開催しました。鎌長製衡株式会社・総務部の小国課長によるご講演「会社概況と採用状況について」の後、日本での就職活動を経験した留學生と日本人学生によるパネルディスカッション「今伝えたい！私たちの“就活”」を行いました。パネルディスカッションのコーディネートを本学キャリア支援センターの杉本副センター長にお願いしました。

外国人留學生対象「企業見学会」

平成23年1月14日、留學生対象の「企業見学会」を実施し、香川大学と高松大学の留學生27名が参加しました。今年度は香川県丸亀市の大倉工業株式会社・新規材料事業部を見学させていただきました。事業部長・植田様のご講演の後、工場を見学しました。



ビジネスマナー：あいさつ練習のビデオ撮影



留學生のための就職支援ガイダンス：パネリスト

地域型講師研修会「ビジネス日本語と社会で求められる力」

平成23年1月22日、地域型講師研修会「ビジネス日本語と社会で求められる力」を、財団法人海外技術者研修協会（AOTS）との共催で実施しました。東京女子大学現代教養学部・教授の今村楯夫先生を講師としてお招きし、大学等での授業の中で、社会で求められる力（例 社会人基礎力）をいかに育成するのかを学びました。

各報告の詳細は、国際ナショナルオフィスのホームページに掲載しています。あわせてご覧ください。
(国際ナショナルオフィス 正楽 藍)

世界・地域との交流活動

「世界青年の船」事業ディスカッション交流会を実施

平成23年1月14日、内閣府（財）青少年国際交流推進センター主催「世界青年の船」事業に参加したチリ共和国とタンザニア連合共和国の青年23名が本学を訪問し、本学・徳島文理大学の学生20名及び国際グループ若手職員2名と、「教育」をテーマとした英語でのディスカッション交流会を実施しました。

この交流会は、国際親善とリーダーシップの育成を目的とした「世界青年の船」事業に参加した外国青年が、事業の一環として香川県を訪問し、高松市立亀阜小学校にて授業見学や給食を体験した後、本学にて、「教育」に関する4つの小テーマに分かれて、英語にてグループディスカッションを行ったものでした。参加者は、それぞれの国の教育事情・習慣・考え方に触れ、活発な意見交換を行いました。また、お互いの国の教育制度や現状を知り、自国の教育を改めて考える良い機会となりました。

この交流会を機会に、本学学生、職員らの国際交流への意識が益々深まることが期待されます。

(国際グループ 宮脇 みどり)



ディスカッションの方針を説明するロン留学生センター長



リーダーを中心にディスカッションが熱く行われた

地域交流との国際交流

●高松市立紫雲中学校生との国際交流会（平成22年9月29日）

本学の外国人留学生が高松市立紫雲中学校を訪問し、国際交流活動を行いました。

この取り組みは、中学校の授業である「総合的な時間の学習」の「異文化交流学習（国際理解教育）」というテーマで、本学を含む JICA や香川高専等機関から派遣された10数名の外国人の方が、クラス別にわかれて、3年生の生徒向けに、出身国の紹介（地理・歴史）や文化の説明等を行うものです。

本学からは、中国出身の法学部3年焦嬌（しょうきょう）さんが講師として参加しました。言語や文化の違いについて講義をしたところ、「好きな日本語は何ですか」、「日本と中国では中華料理に違いはありますか」などと、生徒が積極的に質問をする姿が見受けられました。その後、生徒手作りの双六などのゲームを楽しみ、国際交流を深めました。

●香川県立三本松高校生との国際交流会（平成22年11月10日）

香川県立三本松高校国際コミュニケーション類型の1,2年生73名が本学を訪問し、本学留学生10名（出身国：カンボジア、中国、マレーシア、ベトナム、ペルー、ホンジュラス、ドイツ、フィンランド、ジンバブエ）との国際交流会を開催しました。

この国際交流会は、高校生に本学留学生との英語によるコミュニケーションを通じて国際理解を深めることを目的に、毎年実施しています。

本学留学生は、出身国の概要、生活習慣や文化の違い、若者の生活等について学ぶ「国際理解講座」と、母国語の特徴、文字、簡単なあいさつ、日常会話などを学ぶ「外国語講座」を開きました。高校生は、驚きや新しい発見に時折声を上げ、わからないことを積極的に質問していました。

（国際グループ 中塚 紗和子）



本学留学生が高松市立紫雲中学校を訪問



香川県立三本松高校国際コミュニケーション類型の1,2年生73名が本学を訪問

留学生の声

Experiences, Hopes, and Plans in Japan

Saul Edgardo Moncada Valladares (Honduras)



サウル・エドガルド・
モンカダ・ヴァヤダレス
(ホンジュラス)

Coming to Japan has been an amazing experience since I arrived here in October 2010. It is like an adventure full of anecdotes, expectations and plans. Firstly, I have been given the opportunity to know many people, places, languages and cultural aspects. Thus, I hope I can get the best out of the Japanese people and culture so that when I go back to my country, good relations

between Honduras and Japan can be fomented. Moreover, I expect to understand the teaching of the English language in Japanese schools and, also, about the Japanese System of Education so I can apply those good things learned in my country.

Referring to Japanese people, I think they are always available when help is needed. For example, I remember once when I was at the airport in Tokyo and needed to change dollars into yens, but I did not know the place, nor the way how to do it, so I asked a Japanese woman and she showed me all the way through and the whole process involved. Besides, I

have had some other similar experiences, which gives us an idea of the way most of the people here behave towards the others which has been an important factor for the development of this country, I guess.

On the other hand, Japanese culture and technology are very interesting since I've attended some events like the Tea Ceremony where I met people from different countries or the Udon-Making which involves an interesting process of making that delicious traditional dish. Moreover, at Himeji I could see just an example of how good the Japanese technology is: high tech. I want to tell my people all these things about the Japanese culture so that they can have more interest in Japan.

As to the English Language Education in Japanese schools, I would like to understand about the methodology and techniques implemented by the teachers. That is, observe whether the students like learning English or not; take a look at the kind of environment in the classroom, and all the things which influence on the students to learn. Then, I would like to apply that knowledge at schools in my country. ...

全文はインターナショナルオフィスのホームページをご覧ください。

My experiences so far, hopes, and plans for the future

Wan Bunna (Cambodia)



ワン・ブンナ
(カンボジア)

I arrived in Japan on 4th October 2010, with the Japanese flight through Kansai International Airport. At about 3 o'clock, I arrived at Kagawa University where I was warmly welcomed by Professor Lrong Lim, Professor Takenaka Tatsunari, Shioi Sensei, Takamizu Sensei, and staff members of the Administrative Group. That was my first time to see Japan. After the

opening ceremony, I met a lot of Japanese people as well as foreign students.

From the start, I felt I like them very much because they are kind, helpful, and reliable. Also, they help and teach me the Japanese language. During that time, I tried to go out with other friends, even though my Japanese language is poor. And now Japanese language is better than before. Similarly, I tried to eat Japanese food. I have come to like it very much. I am also adapting well to the Japanese language, food, culture, and environment. All these, I can't forget in my

life.

In Cambodia: I started my teaching job in 2000 at Hun Sen Svay Chrum High School. I used to be the leader of English language teaching group in high school. Moreover, I would like to push some projects to develop either school or school curriculum, held the meetings to find ways for the effective methods on teaching, too. For example, during 2006–2008, I decided to help the volunteering American teacher, who came to work in my school through Peace Corp. In that time, we developed some plans such as Library plan, world map painting plan, school curriculum, book use. Also, we held meeting between English language teaching groups with other groups in school. Totally, we wanted to help to develop both curriculum and school projects.

My plans in Japan: I would like to study Japanese language until I can speak, write, and communicate in Japanese language. ...

全文はインターナショナルオフィスのホームページをご覧ください。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第4号 2011(平成23年).3.31

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1194 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>